



目 次

編者の序言	一		
寄稿者紹介	四		
第一部 失敗	二		
緒言	二		
広島以前	一六		
1 アインシュタインの手紙	一七		
2 原子爆弾と戦後世界におけるアメリカの立場	一九		
3 陸軍長官への報告	二三		
4 アメリカ大統領への請願	三三		
5 原子爆弾使用の決定	三三		
原子力国際管理達成の失敗	四〇		
6 啓示への表示灯	四〇		
7 原子力の国際管理	四三		
8 国際管理の失敗	四六		
9 なぜ失敗したか	五〇		
10 次の措置	五九		
世界を護るための探究の継続	六六		
11 戦争の防止	六六		
12 最高の課題…世界政府の訴え	一〇三		
13 科学者の二つの責任	一一六		
14 アルバート・アインシュタインの世界政府支持について	一一〇		
15 アインシュタインの回答	一二五		
アメリカの核兵器独占の終末	一三〇		
16 あらかじめ戒めるも、あらかじめ備えず	一三二		
17 アメリカの水素爆弾	一三七		
18 五年の後に	一四九		
第二部 危機			
緒言	一五九		
脆い世界	一六三		
19 われわれの直面している危険	一六三		
20 生物学戦争…回答の要請	一七一		
21 化学戦争の可能性	一七六		
アメリカの外交政策	一七九		
22 原子兵器とアメリカの政策	一七九		
23 現状の維持とその代償	一八八		
24 原子力時代の教義…共通の目標に共通の努力を	一九六		
25 いかにして原爆とともに住み——生き残るか	二〇六		
軍縮、戦争抑止、軍備管理	二三三		
26 軍縮と国際緊張	二三三		

27 フィードバック回路の破壊  
 28 合理的な世界の安全保障組織  
 29 漸進的、一方的な引き離しの一例  
 30 何にもまして第一のこと…平和な世界達成に  
 おける軍縮の役割  
 31 イギリスの核軍縮の場合

降下物、民間防衛、および核実験停止

32 放射線による遺伝損傷  
 33 降下物と家庭防衛  
 34 降下物への誤信  
 35 待避壕についての考察  
 36 待避壕より重要なこと  
 37 国家安全保障への一步としての核実験停止  
 38 核爆弾実験——懐疑的な意見  
 39 核実験を続けるべきか止めるべきか

第三部 恐怖

緒言

ソヴェトのスパイ行為と科学における秘密  
 40 理性への訴え  
 41 ソヴェトの原子力スパイ  
 42 原子力スパイ裁判…その異端者的追想  
 43 科学と国家の関係について

二二六  
 二二三  
 二五三  
 二六一  
 二七〇

三三七  
 三三〇  
 三三一  
 三三四  
 三三六  
 三三六

忠誠と機密保護（安全保障）

44 国家的忠誠の基礎  
 45 原子力委員会の特別研究員制度…  
 屈服すべきか戦うべきか  
 46 アメリカの紙のカーテン  
 47 査証の入手  
 48 原子力委員会とJ・ロバート・オッペンハイマー  
 事件  
 49 議会におけるライナス・ポーリングの考査…  
 その法的基盤  
 50 議会におけるライナス・ポーリングの考査…  
 古い壺のなかのすっぱい酒

第四部 希望

緒言

科学技術における国際協力

51 科学と飢餓  
 52 科学国際協力の展望  
 53 科学、技術、世界の開発  
 54 国際地球観測年の教訓  
 55 相互信頼への鍵…科学技術協力  
 科学と世界問題に関するパグウォッシュ会議  
 56 戦争絶滅の訴え(ラッセル・アインシュタイン宣言)

二六四  
 二六五  
 二七九  
 三八二  
 三九五  
 四〇九  
 四三三  
 四四七

四六五  
 四六九  
 四七五  
 四八〇  
 四八五  
 四九三  
 四九七  
 四九八

57	第一回、バグウォッシュ会議…その歴史と展望	五〇一
58	第三回、バグウォッシュ会議	五〇九
59	ウィーン宣言	五一四
60	第六回、バグウォッシュ会議	五二〇
61	第七、八回、バグウォッシュ会議	五二三
	希望の底辺	五二七
62	原子力時代の人類の将来	五二八
63	科学のメッセージ	五三四
64	人類と原子	五四一
65	運命の時計の針を押し戻す	五五一
	あとがき	五五九
	索引	i